

---

# あとがきにかえて

AZMA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あとがきにかえて

### 【Nコード】

N0513T

### 【作者名】

AZMA

### 【あらすじ】

Dancingのあとがき兼裏設定公開場所です。

どーでもいい作者の独り言の中に、鍵らしき面影がちらほら…するかもしれない。

あとがきにかえて

今回、この小説を執筆するにあたり、参考書籍として利用したのは、

ロバート・W・チエンバース著 『黄衣の王』 より『黄の印』

この作品はコズミック・ホラーの巨匠であるハワード・P・ラブリフトが執筆し、後にクトゥルフ神話として纏められた神話体系を構築する物語の一部として扱われている書の一つとされています。が、実際にはラブリフトよりチエンバースの方が先に作品の発表をしており、ラブリフトがチエンバースの影響を受けたものとするのが正確なようです。

従って『黄衣の王』とは、今なおファンを魅了してやまないクトゥルフ神話の根幹に関わった作品であるとも言えるような気がします。

この『Dancing in the Yellow』はチエンバースの黄の印を参考に、リメイク作品として書いた物です。

果たしてこれをリメイクと呼べるのか、インスパイア？ トレース？ なんと呼んでも構いませんが、とにかく原作に魅了されたのです。

しかし作品を書くにあたり、結構な苦労もありました。

なにせ舞台がヨーロッパから日本に、それも現代と思しき時代背景で作っているために、原作のようなパリの雰囲気は完全に消えてしまっていますし、登場人物も原作では主人公は画家で、ヒロインが主人公の絵のモデルを務めるダンサー？となっているばかりか、性格もかなり異なった方向に行ってしまった。

しかもチェンバースの文では艶やかで美しい表現がされているのに習って自身でも頑張ってみたものの、どうにも文章が冗長になり、結果的には翻訳しても2万文字足らずの短編小説だったのに、私の方では5万文字を突破してありました…

明瞭で綺麗、且つわかりやすく読みやすい文章を書けるようになりたいものです。

それでもまあ、私自身が黄衣の王を読んで理解した範疇で、その解釈を元に原作での謎を一つ、明らかにできたのではないかと自負してみたり…

それぞれのキーワードを辿ることで原作ほどの難解さはないものと思っております。むしろかなりわかりやすくしてしまった可能性も…

とりあえずこのDancingではおかしな行動を取っている人物、並びにおかしなやり取りがなされているシーンがあり、そこに気付ければ何が起こっていたのか容易に理解できるようになるでしょう。ちなみにクトゥルフ神話の解説書なんかを読んで知識があった人には、精神衛生上、お笑い番組等で気を紛らわせて頂ければと思います。

## 登場人物

・ 糺森 ただもり すずか 涼 すずか：名前の由来は京都市左京区下鴨神社にある【糺ノ森】から。偽りを正す神が鎮座し、神社に参拝した人が御手洗川の川辺で涼んだ【糺の涼み】という行事がある。

なお、糺ノ森をもじった【ならずの森】という言葉があり、不可能、許されないことなどを示す。

・ 吉志の美代子、菅原の辰則：この二人に補足するのは所在地。

吉志の美代子は六条（京都）に住んでおり、そこは中世、罪人の処刑が行われた六条河原がある。

菅原は八幡、入ったら二度と出てこられない竹藪があり、八幡の藪知らずという句がある。

## 各章より

・ 「青桐の一葉」：青桐の葉が落ちて秋の到来を知ること。それによつて小さな前触れから将来の成り行きや衰亡の兆しを察することを言う『一葉落ちて天下の秋を知る』という句がある。

・ 主人公の使っていた土や陶器の種類：土に田土を使用しているため、備前焼か？

・ ピースハイル、エレシノ、ゾドム：その名を持つ物質は地上に存在しないが……

・ 牡牛座：黄道十二星座の一つであり、冬の代表的な星座。1月下旬に南中する。輝星アルデバラン、プレアデス星団（和名：昴）、ヒヤデス星団などを含む。

・壁の一文：原作の序文をそのまま拝借。なにげに原作を読み解く上でもかなり重要なキーワードだと思っ…

翻訳された原作の『黄衣の王』の『黄の印』をお読みになる場合はこちら

The Creative CAT 訳 『黄の印』 The Yellow Sign』

こちらまで辿り着いた皆様

ことなくそ長つたらしい稚拙な文章に最後までお付き合い頂き、まことにありがとうございます。

感想等がありましたら、mixiやツイッター、その他の手段にご送信願います。送ってくれたら転じて喜ぶこと間違いなしでございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0513t/>

---

あとがきにかえて

2011年10月9日01時40分発行